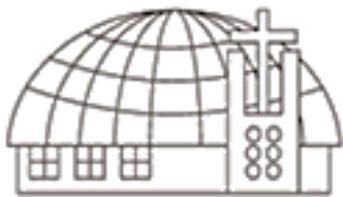


5月報(2021年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26
☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615
e-mail :fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

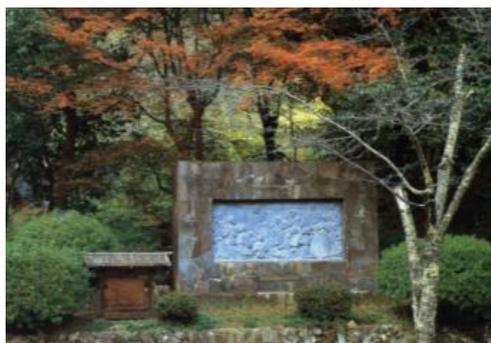


津和野 乙女峠まつりについて

池田 春子

毎年5月3日に津和野で行われている乙女峠まつりは、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、今年は非公開で行われます。そこで、乙女峠まつりについて簡単に紹介します。私たちは直接ミサに参加することはできませんが、この文章が殉教者たちに思いを馳せる契機となれば幸いです。

明治初め、政府のキリシタン弾圧（「浦上四番崩れ」）により、長崎から流刑された数多くの信者が、拷問や投獄でもその信念を貫き通し、津和野で命をおとしました。これらキリシタン殉教者に捧げられるのが「乙女峠まつり」です。津和野カトリック教会から約2キロ離れた乙女峠を目指して、聖母マリア像を中心に信者の巡礼の行列が続きます。緑のそよぐ、風薫る乙女峠にて、正午より荘厳な野外ミサが行われます。



浦上四番崩れで弾圧され、流罪になったキリシタンはおおよそ3400人と言われています。萩、津和野、福山、鹿児島や名古屋など20カ所が流刑地に選ばれ、最終的に津和野へは153名が流刑されました。キリシタンたちは、流刑地で厳しい拷問を受け、津和野に流刑されたキリシタンのうち37名が命を落としました。その中には幼い子供や10代の少年もまじっていました。

彼らが受けた拷問の様子は峠にたたずむ小さなマリア聖堂の8枚のステンドグラスに描かれています。例えば、病身の仙右衛門や甚三郎たちは、氷の張った池に裸にされて投げ込まれ、その後火あぶりにされました。また、安太郎は裸で雪の中の、身動きもとれない三尺牢（縦、横、奥行きが99センチメートルの立方体



の牢屋)に入れられました。しかし彼は、毎晩 12 時頃になるとマリア様に似た女性が現れ、慰めを頂いていると言って、最後まで棄教しませんでした。さらに 5 歳の女の子もりちゃんに行った役人の拷問は次のようなものです。飢えに苦しんでいるもりちゃんに、役人はおいしいお菓子をを見せて言いました。「食べてもいいけど、そのかわりにキリストは嫌いだと言いなさい」と。それなのにもりちゃんは、「天国の味のほうがもっとおいしい」と答えたのです。心の弱かった何人かは、口で信仰を捨てましたが、彼らは働いて食べ物を購入し、信仰を守っている人たちにひそかに差し入れたそうです。

当時のクリシタンたちの信仰の強さに驚くほかありません。「津和野の証し人の列福を求め



る祈り」にあるように、私たちも、この同志たちの生き方に倣い、神様に自己をゆだねて生きる姿勢を忘れずにいられたらと思います。コロナ禍で不安の絶えない今こそ、大切なことかもしれませぬ。さらに知りたいと思われる方は、どうぞ以下のホームページをご覧ください。

www.sun-net.jp/~otome/jyunkyosya.html

[乙女峠の殉教者 - 津和野カトリック教会公式ホームページ](#)

【信仰を生きる】 「責任チームの活動を終えて」 千種 真一

「信仰に生きる」の記事執筆の依頼を受けて何を書いたらよいのかと悩みましたが、日々私が心がけていることを書くことにしました。私が日々、心がけていること、それは「神様に身をゆだねて、悩まない!」ということです。

2018年11月に一通の手紙を事務の藤井さんから受け取りました。その手紙には当時主任司祭であったアルナルド神父さまから「あなたが福山教会責任チームの被推薦者の一人として推薦されました。」と記載されていました。私は福岡県の朝倉市で生まれ、母方の実家がカトリックだったので、母に連れられ、毎週末ルーティーンで教会に通っていました。つまり、強い意志で洗礼を受けてカトリックになったというよりは、習慣で教会に通っていたということです。就職で福山に来ることになり、同様に習慣で福山でも教会に通いました。そのようなときいただいた一通の手紙、福山教会のこと、福山教会の動きのこと、何もわからない私でしたが、手紙をいただいて、私に何ができるかわからないが、神様のお導きかもしれない、できることを精一杯やってみようと思い引き受けることにしました。

責任チームでは「きょうどう」になりました。一年目には山口さん、田中さん、佐藤さんと4人で、協力して取り組みました。初めに地区長会があり、福山教会には地区ごとで分けられ

たブロックがあり各ブロックを取りまとめる地区長さんがいます。地区長さんは教会の掃除を取りまとめたり、地区で帰天された方が出ると、お通夜、お葬式の連絡をしたりと大変。その中でも一番の負担になっていることは連絡網を使った電話連絡でした。メンバーで話し合い、今では当たり前になりましたが「マメール」を導入することにしました。これにより地区長さんの負担はかなり減ったのではないかと思います。(まだ、登録されていない方は登録をお願いします。) やっと「きょうどう」のお仕事にも慣れてきたころ、コロナウイルスによるパンデミックが全世界を襲いました。教会の活動がほとんどできなくなり、ミサも行われぬ日々が続きました。そんな大変な時期に赴任されてきた猪口神父さまからアドバイスもいただきながらオンラインミサの配信がスタートしました。こちらも今では当たり前になってきましたが、コロナでなかなか外に出られない人、体調が悪くて教会に行けない人など配信ミサを届けることにより、みなさまの心の支えに少しでもなったのではないかと考えています。これらの事柄は私がいたからというわけではありませんが(田中さんの提案や猪口神父さまのアドバイスのおかげだと思います)、仕事でパソコンをよく使うので少しはみなさまのお助けはできたのではないかと振り返っております。つまり、言いたいことは2年前の推薦状は神様のお導きだったのでは?ということなのです。

猪口神父さまのお説教の中の「神様の意思、御業は、超常現象で行われるわけではなく人の手によって行われる。」や定例委員会での「大丈夫です。安心してください。教会では誰かが必ずやってくれるんですよ。」という話が印象に残っています(すいません。言い回しは正確でないかもしれませんが)。いずれも神様のこと、神様の御業;人の行いを信頼しているということです。2年前の推薦状も誰かの思い付き、気まぐれだったのかもしれませんが、きっと神様のお導きで人が動かされ、適任だった私が選ばれたのだと考えております。2年間の活動を終えて、教会に少しでも貢献できたこと、責任チームのメンバーのみなさまと仲良くなれたこと、引き受けてよかったと考えています。初めは責任チームのお仕事が自分にできるか不安でしたが、神様に身をゆだねて、悩む心配はなかったと活動を終えて確信し、今では教会以外でも、それを心がけて生活しています。

最後に、教会に関係しているみなさまへお伝えしたいこと、誰かから教会でお仕事を願いされたり協力を要請されたりすることがあるかもしれません。また、教会以外でもきっと神様ならこうしたほうが良いと考えるだろうなと頭をよぎることがあるかもしれません。その際、みなさまの置かれている状況は千差万別、大変な時期だったり、苦境に立たされている時だったりするかもしれません。悩まず、神様に身をゆだねて行動するとどうなるか(だまされたと
思って) 試してみてください。私は今よりもより良い明日がきっと待っていると思いますよ。

ご復活祭おめでとうございます。

桜の花が咲き（散り？）、新年度の出発で皆様お忙しい頃と存じます。（ここは3月24日開花）ここ南相馬修道院もメンバーが変わって、新しい歩みを始めることになりました。コロナの終息も完全ではないので、どのようなことができるのかまだはっきりしません。カリタス南相馬の活動も、まだ本格的にボランティアを受け入れることもできないので先の見通せない状態です。

3.11の行事について3月に報告できなかったので、簡単に報告します。まずカトリック教会として3月11日に仙台で平賀名誉司教と数名の司祭による追悼ミサ、東京で菊池大司教による追悼ミサが捧げられましたが、参列できず心を合わせました。仙台教区としては各教会で3月7日（日）の四旬節第3主日ミサを追悼のミサとしましたが、原町教会では密を避けるため、7時と10時の2回に分散して行われ、3月11日に非公式の形で追悼ミサを捧げました。小高の修道院では3月14日（日）、被災地のためのミサを捧げました。小高の修道院では、月に1回、原発事故のために亡くなった方、今も不安な中で過ごしておられる被災者の方、放射能汚染で・津波で荒れた農地のうめきなどの償いと贖いのためのミサを捧げています。

3月10日には「いのちの行進」の一部分にカリタスからも参加。小高の同慶寺から浜までの6キロを祈りながらの行進が行われましたが、私は都合がつかず参加できませんでした。



アヴェ・マリアの歌に合わせた舞 幸田司教様のお話が続いて祈り
同慶寺はまだ工事中ですが、本堂が新しくなっていました。この日の祈りのために間に合わせてくださったとか。

それから3月11日、同慶寺で諸宗教合同の慰霊祭が行われました。同慶寺の住職田中徳雲（被災者で子供が小さいので、まだいわきに避難しておられ通いの住職。）の主宰で、仏教とカトリックの合同で、被災者の慰霊と復興を願って集いがありました。2:46分サイレンの時間に合わせてお寺の鐘が鳴り、はじめに般若心経を皆で3回唱え、被災者であり支援者である住



村上霊園でご婦人と一緒に祈る

職のお話。私たちカトリックは、聖歌と主の祈りと被災者のための祈りを唱えました。アヴェ・マリアの歌で舞を祈りとして捧げた方もありました。(写真) 共に一つの心で祈ることは素晴らしいです。

話は変わって、この前書いた(2月号⑫)目の不自由なご婦人について、その後を伝えます。何度か訪問を重ねて、実家が全戸流された村上地区と聞いていたので、2月のはじめに「私たちは毎月、月命日には村上霊園にお祈りに行くけれど、2月11日に一緒に行きませんか」と誘ってみました。すると、「嬉しい。この10年一度も行っていない。ご先祖にも申し訳ないことをしている。兄夫婦は流されてまだ見つからないけど、お墓とあの霊園は兄の息子が建立の発起人になっている。でも今まで誰にも連れて行ってほしいと言えなかった。」と。親戚も周りの人も皆、被災者で思い出すのも、思い出させるのも気を遣って、できなかったのだろうと思います。そして2月11日一緒にお参りしました。実家のお墓の前で写真も撮りました。(写真)「ああこれですっきりした、吹っ切れた、安堵した、ほっとした」と。その写真を1週間後に持って行ったら。「あの晩、家族みんな揃った小さい時の夢を見た。こんなことは初めてだ！」と本当に喜んでくださいました。私たちも10年間の一つの荷を降ろすお手伝いができたことを本当に喜びました。多くの方がまだまだ重荷を降ろせていないと思います。小さなことですが、少しずつでも重荷を下ろすお手伝いができればと思っています。共に住み共に生きることで、心の繋がりができれば進んでいける希望が見えてきたように思います。



3月19日は、ここ南相馬修道院の創立3周年でした。この地に共に住み、この地の人々と共に生きるために開かれた南相馬修道院です。地震・津波・原発事故の三重苦を背負った人々の心の復興の歩みに寄り添っていきたくと思います。

もっともっとお伝えしたい事はありますが、今回はここまでとします。



ポスターにしたいシスター

3月末、小高工房の近くの満開の桜の下にお馬さんが来ました。ワタリ君7歳(人間で35歳くらい)お馬さん大好きな私は鼻ずらを撫でさせてもらいました。4月下旬から誰でも乗馬体験ができるよう、小高の観光のために働く予定とか。

新責任チームメンバーの紹介

池田春子 梅田江理栄子 大内恭子 大城誠一 大塚睦雄 桑田多香子 富山信行

中根まさみ マイ・ティ・ヒェン 吉田和美 (五十音順)

以上の皆さまです。どうぞよろしく申し上げます。(総会の時に担当役割をお知らせします)

召命促進委員よりお知らせします

召命祈りの集いを5月21日(金)福山教会にて行います。9時30分からロザリオの祈り、続いて10時より召命祈願ミサを行います。

広島地区召命祈りの集いは、毎年広島地区内の教会の持回りで行われていましたが、今回は感染症拡大を避けるため、各教会での開催になりました。司祭、修道者への召命を共に祈りたいと思いますので、皆さま、ぜひ、ご参加ください。(召命促進担当：大内恭子)

5月・6月の行事予定

5 月		6 月	
3 (月)	乙女峠祭り中止 (ネット中継配信)	4 (金)	ダン神父様叙階記念日
9 (日)	世界広報の日 母の日	6 (日)	キリストの聖体 日曜学校
16 (日)	主の昇天 信徒総会 尾道マリア祭	11 (金)	イエスのみ心
21 (金)	広島地区召命祈りの集い (各小教区)	20 (日)	日曜学校 父の日
23 (日)	聖霊降臨の主日	24 (木)	洗礼者ヨハネの誕生
30 (日)	三位一体の主日	27 (日)	聖ペトロ使徒座への献金
		29 (火)	聖ペトロ聖パウロ

新年度が始まり、はや5月。新責任チームメンバーも決まり、新しいエネルギーで福山教会もより一層活気づいてきそうですね。5月は年に一度の信徒総会があります。是非参加して皆さんで盛り上げていきましょう。

月報委員会より